

## 四国PW 報告書・行動記録(合ワン用)

文責: 文学部2回生

林春風



<概念図>



<http://www.don-neko.com/tozan/area6/isiduti/isiduti.shtml>

<はじめに>

四回生が引退する以前、わたしは一度しかともに山に登る機会を得られなかったためもう一度一緒に登りたいと思い、無事に就活を終えた四回生とのPWにこじつけることができた。かねてから石鎚山に行きたいと言っていたメンバーがいたため、四国でのPWとなった。

<日程>

2016年9月12日~15日：3泊4日  
予備日1日

<パーティメンバー>

- 文学部2回生 林春風 (PL)
- 文学部4回生 齋藤義広 (SL)
- 文学部4回生 金子育代
- 文学部2回生 上田賢

法学部2回生 服部侑馬  
法学部2回生 沼澤大樹  
法学部2回生 浪松紘平

#### <合宿の目的>

石鎚山の4か所の鎖場をのぼり、慣れること。  
引退した4回生との夏の思い出を作る。

#### <個人装備>

ザック・ザックカバー	登山靴	山シャツ・Tシャツ	山ズボン	水（購入可）
ソックス	時計・コンパス	洗面用具	カッパ上下	携帯食
セーターor フリース（厚手）	タオル×2	トイレットペーパー	財布	サンダル、運動靴
ティッシュ	2.5万地形図、 地図入れ	着替え×2セット	手帳・筆記用具	帽子
ヘルメット				
≪小物入れの中身≫ 三角巾×1、ヘッドランプ（含電池スペア）、靴紐スペア、軍手×1、バンドエイド、常備薬、学生証、ビニール袋（大、小それぞれ数枚）、保険証、非常食（カロリーメイト等）、非常電話金（百円玉、十円玉をそれぞれ数枚）、エマージェンシーシート				

（注）団体装備なし

#### <地図>

2万5千分の1地形図 「石鎚山」「瓶ガ森」

#### <資料>

・昭文社「山と高原地図 54 石鎚・四国剣山」

#### <費用>

交通費（大阪南港～神戸港まで）…20850円  
 宿泊費…3500円  
 +温泉、飲食費等

#### <行動記録>

9月12日（月） アプローチ

大阪南港(22:00発)ー

### 9月13(火) 第一行程

ー オレンジフェリーー東予港(6:00着・6:20発)ー無料連絡バスー伊予西条駅前(6:45着・7:47発)ーせとうちバスーロープウェイ前バス停(8:45)ーロープウェイ下谷駅(8:55着・9:10発)ーロープウェイ山頂駅(9:20発)ー石鎚神社中宮成就社(9:33)ー八丁坂鞍部(9:53)ー一軒茶屋(10:30着・10:45発)ー夜明峠(11:00)ー二の鎖小屋(11:37)ー弥山(12:35)ー昼食休憩ー天狗岳(13:20)ー弥山(14:20)ー二の鎖小屋(14:38)ー一軒茶屋(15:06)ー石鎚神社中宮成就社(16:00)ーロープウェイ山頂駅(16:30着・16:40発)ーロープウェイ下谷駅(16:50)ーロープウェイ前バス停(17:23)ーせとうちバスー伊予西条駅(18:17着・18:54発)ーJR予讃線松山線ー松山駅(21:07着・21:17発)ー伊予鉄道市内線 道後温泉行ー道後温泉駅(21:42)ー道後温泉ー徒歩ーホテル松山ヒルズ(22:30頃)

出発前の天気予報は1週間雨と曇りマークばかり。当初の計画では2日目に四万十川沿いをサイクリングする予定だったが、雨で滑ると危険だと判断し、急きょ足を延ばして別府温泉へと向かうことにした。

運転の荒いバスに乗ってロープウェイのりばへ。霧が濃く、ロープウェイからの景色は望めなかった。登りはじめから半行程を過ぎるあたりまで小雨が降ったりやんだりのぐずついた天気が続くがペースは順調で、4か所の鎖場も個人が挑戦、迂回の判断を行い無事に通過した。石鎚山の鎖は一つ一つが大きくほぼ垂直で長かった。途中からホラ貝を吹く山伏の集団と会う。足袋で鎖場を登っており、霊山として今なお信仰される石鎚山を感じた。予定より15分早く弥山に到着。

昼食をとって天狗岳へ向かう。山頂はちょうど運よく雲が晴れて風もなく西日本最高峰・天狗岳を望むことができた。写真家のおじさんにいわれて崖下をみおろすと、小さく虹がみえた!雲に映った自分の陰に虹ができるブロッケン現象というらしい。天狗岳より先は痩せ尾根で、時間も迫っていたので引き返して下山した。帰りは道後温泉で癒されたのち真夜中にココイチでカレーを食べる。

### 9月14(水) 第二行程

起床(7:00)ー朝食(7:30)ーホテル松山ヒルズ(8:25発)ー徒歩ー勝山町駅(8:35発)ー伊予鉄道市内線 松山市駅前行ー松山市駅前行駅(8:47着・9:10発)ー伊予鉄道バス 34系統ー八幡浜港(10:55着・13:00発)ー宇和島フェリーー別府(15:50)ー徒歩ー別府観光ー別府(17:57)ーJR日豊本線 大分行ー西大分(18:07)ー徒歩ー西大分港(18:17頃着・19:15発)ーフェリーさんふらわあ ばーる号ー

(注) 二日目の行動記録はとっていないため計画書から引用。

朝食時に窓の外を見ると土砂降りでげんなりしつつも、バスに乗り込み別府温泉を目指す。今回のPWでは三回フェリーを使うが、うち愛媛の八幡浜から別府までは三時間ほど。みんなで飽きるほど大富豪にいそしんだ。雨もやみ、雲が残るものの風もなく静かな瀬戸内海であった。

到着後は別府温泉の代名詞ともいえる竹瓦温泉へ。なんと100円で入浴できる。残って一人別府観光を楽しむという先輩と別れて、そうそうに帰りのフェリーへ向かう。ただ温泉に入るためだけに九州へ来たこのコスパの悪さも振り返ればいい思い出である。

## 9月15(木)

神戸港(6:35)一解散

### <個人の振り返り>

林春風(PL)

前日に二日目の行程を大きく変更することになり、あわただしい思いをしたが、全工程において特にトラブルはなくスムーズな山行であった。山行においても、鎖場で迂回するメンバーと分隊したものの、各自で判断を行い順調に登頂できた。四回生と山岳パート2回生という気心知れたメンバーばかりであり、ひさしぶりに楽しい企画をすることができ、満足している。

夏季休暇中であったが、一部のメンバーで二回顔を合わせて企画の話し合いが行えたのは有意義であった。PLとして下調べや計画書の作成をほぼすべて行ったので、もう少し分担を提案すればよかったと感じているが、メンバーたちが楽しそうな感想を送ってくれたので企画してよかったとしみじみと思う。

斎藤義広(SL)

4回生となり、ワンゲルの企画参加はもうないだろうと案じていたが、ありがたいことに後輩とまた出掛ける機会に恵まれた。出発前に発熱するという準備不足もあったが、何とか乗り切り、久々に仲間と楽しい時間を過ごせて満足している。特に鎖場での後輩の姿は成長を実感するとともに、現体制での技術指導の確かさを知ることとなった。これからも彼らの成長を楽しみにしつつ、また共に出掛ける機会があることを願うばかりである。

金子育代

ずっと行きたいと思っていた石鎚山に登ることができ、大学4年目にこの機会をもてたことをありがたく思う。私個人としては鎖場に臨めなかったことが非常に残念であったが、後輩達がスイスイと登っていくのを見て、後輩の成長と現役の活動の成果を実感することができた。やり残した鎖場を楽しむべく、35歳くらいまでにまた石鎚山に登ろうと思う。他

のメンバーが関西に戻る中、別府温泉に一人残る申し訳なさもあったが、一人旅館は最高だった。くせになりそうである。引退した後もワングルのメンバーと山に行くことができることをありがたく思うとともに、今回のPWに参加したメンバーや計画してくれた林さんに感謝したい。

#### 服部侑馬

かねてより登りたいと思っていた、石鎚山に登ることができよかった。途中天候に恵まれな場面もあったが、ワングルの仲間と行く旅行はとても楽しく、充実したものであった。また、同回のみんなや久しぶりに会った4回の先輩とも今回の企画を通し、交流をすることができ、いい思い出となった。

#### 沼澤大樹

ここ最近では一番楽しめた山行だった。年に数回はこのような気軽な山行をしてもよいのではないかと思った。また機会があれば、今回断念したサイクリングにも行ってみたい。

#### 上田賢

今回の四国PWは雨の中、山に登るといいとは言えないスタートでしたが、途中からは晴れ始め、鎖場も最初以外全て登ることができ、山頂に着く頃にはすっかり晴天でとても気分が良かった。久しぶりに4回生の先輩たちとも交流でき、とても満足のいくPWだった。

#### 浪松紘平

掛け値なしって感じでただただ楽しかったです。いつもの同回のメンバーはもちろん、4回生の先輩方とも山行中だけでなく宿やフェリーでもたっぷり交流でき、いい思い出になりました。来年の夏も一度くらいはこういうのを企画しませんとね。

#### <おわりに>

出発前は中止にしようかとまで悩んでいた今回のPWであるが、振り返ればひどい雨に降られることもなく、四回生との念願のPWを実現することができてうれしい限りである。四回生二人には企画段階でも行動中にもお世話になり、引退してもなお頼ってしまう心強さを感じた。個人の感想を見て楽しんでもくれた人が多く、めんどくさいことも多かった企画だがやってよかったと心から思う。参加してくれてありがとうございます。

さあ、次はどこにいかうか、

以上